

スマイルプロジェクトだより

Vol.2

ドレーン挿入中の患者さんを
受け持ちました



3南病棟：プライマリーナース

ドレーンを自宅に持ち帰ることになり、大きな不安と訪問看護への抵抗を抱えていました。私は患者さんとご家族に寄り添い、処置方法を何度も丁寧に説明し、先輩やWOCと力を合わせて最適な方法を探しました。不安は少しずつ和らぎ、訪問看護にも前向きになっていただけました。退院の日、患者さんが私に抱きつき、涙を流され「ありがとう。本当に感謝しています」に胸が熱くなり、「患者さんの不安に寄り添う看護師であり続けようと思いました。」

排尿ケアリンクナースと
プライマリーナースと協働して
看護できました！



3新西病棟：プライマリーナース

最初に排尿ケアチームが介入した際は、自尿もなざる得ない状況でした。ADLが向上し、カテーテル留置のまま退院するための指導を進めていたところ、患者さんから「もう一度試してみたい」と希望で再度排尿ケアチーム介入となり、自尿が出たときは患者さんと一緒に喜びました。患者さんの熱意と医師・看護師の連携があったからこそその結果だと思います。



3新西病棟：排尿ケアリンクナース

プライマリーナースからの相談に対して個別性のある排尿ケア方法の提案を行いました。回復期病棟だからこそ、ひとりの患者さんの排尿パターンを知ることができ、生活に沿った排尿ケア介入ができました。2回目のカテーテル抜去トライで排尿自立に至った患者さんもいて、本人、家族とともに喜びを共感できたことが嬉しかったです。

編集後記：どちらのケースもプライマリーナースとして患者さんのその後を考えた看護介入ができていたのではないのでしょうか？患者さんと共感できた成功体験を次の看護にぜひ活かしていきましょう。プライマリーが主体となりますが、悩んだり迷ったときは、チームで看護を行っていきましょう！！

担当CN 皮膚・排泄ケア / 緩和

